

宮前区らしいしくみ「ラウンドテーブル」をお試し実施しよう！

ミーティング1：キックオフ

令和3（2021）年11月3日（水・祝）13：30～16：30

全体説明・発表

出演者：（出演順）

- ・宮前区役所 企画課：山田、小出
- ・株式会社石塚計画デザイン事務所：千葉
- ・川崎市役所 市民文化局：山城
- ・宮前まち倶楽部：辻 麻里子さん
- ・西村 ルミさん
- ・株式会社コジマ：清水 智明さん
- ・株式会社アクロスソリューション：石崎 翔太さん
- ・宮前まち倶楽部：浅野 真紀 さん
- ・宮前区役所 地域振興課：森山

00:00:00 [音楽] タイトル画面

00:00:06

山田：

ただいまから（仮称）宮前区「希望のシナリオ」実現プロジェクト宮前区らしいしくみラウンドテーブルをお試し実施しようミーティング1を開催させていただきます。

私は宮前区役所企画課の山田と申します。

本日はどうぞよろしくお願いします。

それではまず、まず初めに開会にあたりまして、宮前区役所企画課小出からご挨拶をさせていただきます。

00:00:29

小出：

皆さんこんにちは。

私は今年4月に宮前区役所企画課長に着任いたしました小出博美と申します。

どうぞよろしくお願い致します。

本日はお休みのところご参加いただきましてありがとうございます。

コロナの方が私達にとって大変良いタイミングで落ち着いてきてくれましてですね、このように皆様と対面方式で実際にお会いできるというのは本当に幸せなことで、貴重なことであると本当に実感しております。

宮前区役所では、この後は詳しく説明があると思いますが、平成30年度から令和元年度にかけて地域における様々な市民活動の支援のしくみを考えるために、区民の皆さんにご参加いただいて、現地ツアーなどの活動を通して宮前区内の豊かな地域資源、豊かな区民活動を再発見する取組を行ってきました。

そして次のアクションを実際に起こしてみようというところで、残念ながらコロナで中止を余儀なくされまし

たけれども、この度、あの大変お待たせしてしまいましたが、再始動することができました。

区役所の再度の呼びかけに、このように多くの皆様が応じてくださり、改めて感謝申し上げます。

今回の中断していた次のアクション NEXT チャレンジを、三つのグループ三つのラウンドテーブルの実践を通して、宮前区らしい市民活動の支援のしくみ、宮前区らしいソーシャルデザインセンターってどんな姿だろうということを区民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

と同時に今回はもう一つの取組、試みとして市民が地域の課題解決に向けて意見や提案をするために主体的に話し合いの場に加わる、そのための場、いわゆる区民会議のリニューアルに向けた取組としても合わせて実施しようということで、この場を持たせていただいております。

区民会議は参加と協働による地域の課題解決を目的として、平成 18 年度に設置され、12 年にわたり調査審議を行ってきましたが、川崎市では、平成 31 年 3 月に、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」を策定し、新たなしくみの構築を進めることといたしました。

その一つがソーシャルデザインセンター、もう一つが区民会議のリニューアルである区における行政への参加の場、これを川崎市では最近ですね、新たな愛称として、「地域デザイン会議」と名づけましたが、その地域デザイン会議です。

この二つを同時にやるってどういうことっていうふうに思われる方もいらっしゃるかもしれません。

少しだけ触れさせていただきますと、今回、私達はラウンドテーブルの各プロジェクトの検討にも通じる市民活動や市民の居場所づくりで、使いやすい公共施設が区内にもっとあったらいいなということを、前に進めていく取組、これを行政の用語で、公共施設の地域化というんですけれども、この、これというのはですね、先ほどの地域デザイン会議で取り上げて、皆さんとの意見を通して、あのこれらの課題解決に繋げていけたらと考えております。

それに対してソーシャルデザインセンターって何っていうと、区民同士が繋がり、市民創発を行いますようなプラットフォームを指します。

この二つの機能を、本日これから行うラウンドテーブルのような中で、有機的に連携をさせていくことが、宮前区では必要ではないかと私達は考えまして、今回このような形でやってみようということになりました。

皆様どう感じなのかといったこともお伺いできたらと考えております。

制度上のわかりにくい話が長くなってしまいましたが、この後のプログラムでもご説明させていただきますので、そちらにお譲りたいと思いますが、参加者の皆様におかれましては、参加していて楽しいとか、面白いお話が聞けて面白いな、新たな出会いが楽しみだなといった気持ちでご参加いただけたら嬉しいです。

皆様の議論や実践の取組が実を結ぶよう、宮前区役所職員一同、一生懸命努めてまいりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

ありがとうございました。

00:05:16

山田：

それではこの後の進行は株式会社石塚計画デザイン事務所さんをお願いしたいと思います。

千葉さんよろしくお願いします。

00:05:23

千葉：

はい、皆さんこんにちは。

ご紹介ありがとうございました石塚計画デザイン事務所の千葉と申します、よろしくお願い致します。

実はですね、この会は今日初めて始まる会というのではなくてですね、2018 年から結構積み重ねで今日に来てるんですね。

できるだけしつこく説明していこうと思っているんですが、なんのこっちゃってことはいろいろ出てくると思います。

逆に手を挙げていない人は、過去の経緯を知っている人もいるので、そういうふうになんて情報提供しつつも、わからないことがあったらお互い、聞いていって進めていければなと思っています。

早速タイトルにですね、宮前区らしいしくみラウンドテーブルを試し実施しようって言ってラウンドテーブルって何だという話がそもそもあると思います。

あの課長がね、挨拶の中にもありましたが、今日ちょっとこの図をですね、もう紙にも貼らせていただけてますけど何回も出てくるようにしましたんでこういうことが、これが言いたかったんだってのがじわじわわわかっていただけたらと思います。

まずソーシャルデザインセンター、後でね、後で説明しますよ。

でもあの簡単に言うとソーシャルデザインセンターっていう考え方が川崎市 7 区でそれぞれ検討していて、同じ答えを導いてるわけじゃないと。

2018 年からいろいろ検討してきたときに、宮前ではこういうふうに関係する人たちが行政も含めてね、ピザのようになってますけど並んでそこに例えばこんなことしたい、こういうことを困ってるっていう課題とかプロジェクトが投げ込まれたときに、ここにいる人たちの私の知っているこれを使えばいい、こういうことを知識として持つてから教えてあげる人を紹介してあげるとかっていうふうに関係する人のために、このいろんな人の知恵を活かせる場所を、そのプラットフォーム、多様な主体が協働連携するプラットフォームっていうふうに関係する人たちが関わることを取りあえず考えていて、これをラウンドテーブルと今日呼ばせてください。

例えば、こういう人たちがラウンドテーブルに何かを投げ込んだときに、このピースとこのピースとこのピースを使って、ちょっとお試しでやってみようっていうこうプロジェクトチームが生まれてくるかもしれない。そういうふうに関係する人たちが関わっていると、じゃあこのラウンドテーブルって誰が運営するのとか様々な課題はあると思いますが、まず最初にこの概念をまず理解していただきたいと思います。

何度も出てくるんであれそこにも貼ってあるんで、あれを見ながらイメージを深めていくということができたかなと思っています。

で今日の目的はそのラウンドテーブルをお試し実施してみるという今日、3 回やるんですけど 3 回を通してラウンドテーブルというのをお試ししてみたいっていうのがこのワークショップの目的その 1 です。

それを通して、宮前区のソーシャルデザインセンターってどういうものなのかというのを整理していきたいと思います。

なので、今までふわっとソーシャルデザインセンターって言ってきたと思うんですけど、この 3 回を通してやったことで宮前区型はこうであるってちょっと少し具体的なことにね、繋げていきたいなと思っているという

のがこのワークショップです。

これもまた後で説明しますが3回あると言っているんですがこの1回は今日11月3日。

で2回は会ってより、期間があって、この期間に今日3つのテーブルに分かれてもらおうと思っているんですけど、いつもならね会場にテーブルができてるっていう感じなんすけど今回3部屋用意してますんで、その3部屋で3つのテーブルについて話していただきます。

その話したことで、それぞれの方法で何かお試しをする期間があるというのが、この2月までの間。

で、お試した結果を持ち寄って、またここで結局宮前ではこういうふうにやったらいいんじゃないかということを含めていく検証っていうのをやりたいと思っています。

なんでこの3回の流れを覚えていただいて、できれば全体に皆さんお付き合いいただきたいなと思っています。あと今日ね、傍聴で来てる方とかももしこれが私もラウンドテーブルに参加したいっていう方がいらっしゃったらもうそのまま一緒に検証に付き合っていただけたらなお嬉しいなというふうに思います。

そのうちの今日、今日11月3日はこれまでの経緯というのが長くあるんで、ちょっと長いんですけど、こんなことやってきましたという復習おさらい、今日初めて来た人にはこんなことやってたんだというインプットの時間をしっかりと取らせていただきたいと思います。

もう一つが、あのカタカナばかりで申し訳ないっすねラウンドテーブルをキックオフしようということできの3部屋にわかれてちょっと進めていきたいと思っているっていうのはざっくりした説明になります。

なので本日のプログラム、もう既に押してるんですけど、あの第1部っていうところでは、すごくいろんな説明させてもらう期間があって、ちょっと疲れてくる頃に休憩を入れます。

そこから三つの部屋にわかれてお試しラウンドテーブルっていうのをやってみますんで、これ近くなってから説明します。

その方があのすぐわかると思いますんで。

なんで、1部と2部があるということ覚えていただければと思います。

では早速、インプットの時間になりますますがまず一つ目は川崎市のコミュニティ施策とは？ということです。

では早速お願いします。

00:10:50

山田：

改めまして企画課の山田です、本日はよろしくお願いします。

私の方からはまず川崎市のコミュニティ施策とはということでご説明をさせていただきます。

ちょっと既にこれまでご参加いただいている方は何度も聞く話かもしれませんがちょっとお付き合いいただければと思います。

まずこれからのコミュニティ施策の基本的考え方、皆さん知ってますでしょうか。

左上の本でございましてけれども平成31年3月に作成をされております。

目的としては「希望のシナリオ」の実現を目指していくと。

なぜこれが必要なのか将来的には確実に超高齢化人口減少社会が来るので、参加と協働による地域社会、地域課題の解決が必要ですということになっております。

進め方については、これまで行政計画、行政の仕事っていうのはあの計画を立てて現状分析をして、あの課題に対して計画的に目標設定して進めてきたというやり方だったんですけども、今回はちょっと違うやり方をしますよということで、それにプロセスを大切にすると市民と一緒に作り、職員の意識も変えていくということをやっていこうということが書かれております。

ちょっといまいち理解が難しいところもあるかと思いますがでちょっと詳しくご説明させていただければと思いますけれども、そもそも希望の、目指す「希望のシナリオ」って何っていうところなんですけれども。

まず、様々なですね、個人や団体が出会い、それぞれの思いを共有共感することで生まれる相互作用によりこれまでにな活動や予期せぬ価値を生み出す市民創発の力で、豊かな繋がりや居場所があり、弱い立場にある人も含めて、みんな幸福で誰もが認められる社会がずっと続いていく10年後を目標にそんな地域の実現を目指すのが「希望のシナリオ」ということになっております。

ご理解いただけますでしょうか。

ちょっと難しいかなっていうところもあってそれどんな形であろうかということで絵に描いてみたというところがございます。

この絵は皆さんどうお感じになりますでしょうか。

これで絵がわかりますでしょうか。

私すごいこの絵はいいなと思っておりまして、ぜひこんなまちがあれば住んでみたいなと思っています。

どういう点がというところですけども、よく見ていくとですね、例えばあの学校のところで防災訓練が行われていたりとか、公園でマルシェや音楽フェスが行われていたりとか、森の遊び場があったりとか、町内会館で認知症カフェが行われていたりとか、本当に地域のですね、様々な居場所があって自分の好きな場所で楽しく過ごして過ごせるまちになっているのかなと思います。

またこれもおそらくなんですけど、これ、こういう場所を作ってる人も、楽しんでいる人も両方まちの人なのかなと思っていてそれがすごいいいなと思いますし、またこれってちょっと宮前区っぽいかなって思います。宮前区って本当にいろんな活動があって自分たちでいろんなことやってるってのはすごい特徴かなと思っていてすごい良いなと思っています。

で、本当にまちを楽しんでいる人がまちにすごい溢れてるって意味ですごいいいまちだなと思ってまして。

私もですね、みんなそうなんですけど、あの地域のために働くっていうことを選んだ立場としてはぜひこういう社会を実現するために、少しでも頑張っていきたいなというふうに思っているところです。

じゃあこれじゃあどうやって実現するかというところなんですけれども。

なかなかこれまでの行政でのやり方ではできないよねっていうところなのかなと思っています。

だからこそ区民の皆様と一緒に力を合わせて進めていこうというところは、重要なところかなと思っています。

さらにはもうこれ一つ一つ見ていただくとですね、もうどれもどの取組も宮前区では結構やられていると。

そんなところが既にあるよねっていうところで、それをさらに伸ばしていけば、こういう絵に近づいていくのかなというふうに思っています。

(00:15:00)

それをどうやって進めていくかということなんですけれども、まず区域レベルの新たなしくみとしまして、各区にソーシャルデザインセンターを作ろうということになっております。

どんな機能なのっていうところについては、人や団体、企業、資源・活動を繋ぐですとか、活動支援、資金助成、相談、情報収集をするというようなことが書かれています。

また地域レベルの新たなしくみとして、地域の居場所「まちのひろば」を増やしていこうということになっています。

「まちのひろば」というのは先ほどの絵にあった一つ一つの取組のことを指しているというふうに考えていただければと思います。

進め方についてはですね、トライアンドエラー失敗を恐れずに、スモールスタートできることから進めていこうというところでやっています。

最初はですね、なかなか小さな取組なのかもしれませんが、良い事例をどんどん積み重ねていけばですね、それを参考に加速度的にですね地域に広がっていくのではということをめざして取り組んでいこうと思っています。

続きましてですね、あとこれまで宮前区で何を進めてきたのというところでございます。

まず宮前区として大切にしてきたことというところなんですけれども、まずポイントの一つ目としては、いつまでに何を作るか、最初に決めないのが肝ですよということになっております。

これ先ほどちょっと説明したんですけれども、これまでの行政の手法というのはですね、計画書をまず作りますと、それに基づいて予算をこうつけていきますと、そうすると計画的に基本的には、あの公務員真面目なんので進んでいくんですけれども、きっちり物が出来上がると、いうところなんですけれども、これはこれですごく大事なことで引き続きやっていくっていうところでありますけれども、今回のやり方については、ちょっと違うやり方でやりましょうということになってます。

話し合いながらですね形を探っていきましょうというところで進めていきたいと思っております。

区民の皆様とですね、力を合わせてやっていくと。

そうするとですね、何ができるかはちょっとわからないと。

もしかしたら何も生まれないかもしれない。

だけど、もしかしたらいろんなところで繋がって思ってもみなかったすごいものができるかもしれないっていう、そんなやり方をやっていきたいというのが今回のやり方でございます。

そして二つ目ですけれども、行政もあくまで多様な主体の一員であるということでございます。

もう先ほどちょっと千葉さんからご説明があったかと思えますけれども、これまでの、これまでの手法として行政が予算をつけたりとかしてですね、取組の中にいるというやり方ではなくて、課題によってはもしかしたら行政が関わらないで地域の人たちでやるものもあるかもしれません。

その代わりですね、ただ関わらないだけではなくて、新しいやり方をするにあたっては、じゃあ行政の役割はどう果たしたらいいんだろうとか、そういったところを職員自身も大きく意識を変えていく必要があるのかなというふうに思っています。

具体的に何をやってきたのかというところでございますけれども 2018 年からですね、宮前区らしいしくみについて考えてきたところです。

まず宮前区内の豊かな活動の広がりを見直しを再確認してきたということでまず皆さんに集まっていただいてですね、あの区内の活動ですとか繋がりを明らかにするために、宮前区内の様々な活動の情報を出し合ったところから始まっています。

それを元にですね、活動相関図を作りました。

こちらですけれども、改めて宮前区に本当に資源たくさんあるよねっていうことが見えてきたし、またそれぞれが繋がっているよねっていうことが見えてきたのかなというふうに思っています。

しかもこれだけではなくてもっとさらに広がってるっていうところもあります。

さらにこの活動相関図をマップに落とし込んでみた。

続いてですねマップを見ながらですね、行ってみたい活動現場を出し合って現地ツアーを企画しました。

様々な現場をですね実際に行ってみて、あの体験してきたというところになっております。

これやっぱり現地に行ったことからこそですねわかる活動のですね背景ですとか苦労とか、凄さっていうことがすごい見えてきたのかなと思っています。

例えば一つ事例をちょっとご紹介させていただくとですね、高山の土曜ストアというところで市営高山団地ってところがあるんですけれども、そこでですね高山の自治会、団地の自治会と東急ストア協力して、実施している出張販売にお邪魔をさせていただきました。

であの高山の団地の近くにはですね、地図上で見るとすごい近くにスーパーがあって、なんでこんなところで出張販売してるんだろうって思うんですけれども。

実際行ってみると団地とスーパーの間にすごい急坂がありまして、もう本当に若い人にも上るのがすごい大変で、ここなんかおばあちゃんが重いものを持って上がるなんてとても無理だよねっていうのがやっぱり坂を上ってみて実感すると。

実際行ってみるとですね、団地にはまだエレベーターがない。

本当に階段を登らなきゃいけないと、とても無理だになっていうことが見えてきて、本当にきついよねっていうところで、実際行ってみると、ただそこで出張販売してるだけではなくて、自治会の方たちがもう 5 階まで物を運んであげたりとかしてそういうすごいあの活動の側とか凄さが見えてきて。

そういうのを見てくると、本当にすごいなとか、頑張ってるとか、そういった共感もすごいして応援したくなるっていうところがあったのかなというふうに思います。

また思いもよらない成果としては参加者同士がですね、仲良くなって信頼関係が深まって、後ほどご紹介する新しい取組が繋がったのかなというふうに思っています。

続いて現地ツアーが終わってやってきたことでございますけれども、現地ツアーのレポートを作成しました。それを共有をしました。

続いて現地ツアー、資源カードというものを作りましたこちらです。

はいこれを皆さんにお配りした冊子、こちらですねすいません。

62 ページ以降に載っているものでぜひ見ていただければと思うんですけれども。

あのカードは裏表ありまして、これ見ていただくと、既に地域には地域活動支援に繋がりそうな資源。

例えば場所ですとかノウハウですとか人ですとか、あの地域活動の助けをしてくれそうな資源というのは本当にいっぱいあるんだなというのがわかります。

ソーシャルデザインセンターは地域活動を支えるしくみだと思うんですけれどもその種が地域にはすでに本当にたくさんあるんだなということが見えてきたのかなと思っています。

同時にですねツアーを行ってみると、それぞれの活動の課題なんかも見えてきた、というところかなと思ってまして。

そのこんなこの活動についてはこんな助けがあると、この支援があるともっとこういうことになるんじゃないのっていうことも見えてきたのかなと思ってまして、そういうのをまとめたものが、このあの「活動の手助けになるかもアイデア集」というものになっています。

これが必要な支援ということで、六つの柱でまとめたものがこちらになります。

(00:22:25)

続いて必要とされる支援と資源、地域の資源をうまく組み合わせれば新しいアクションに繋がるんじゃないかと、活動がもっと前に進むんじゃないかということで、そのツアーで見つけた場所ですとかノウハウを使ったアクションを考えて協力者を募りました。

次のステップとしてですねこのアクション案について、皆さんの関心が高かったものをですね、いくつか進めながら宮前区らしい支援のしくみを検討していこうとしていたところだったんですけれども、それがちょっとコロナの関係でストップしてしまって、ていうところで、今回改めてその取組を進めていきたいというふうに思っております。

今回必要とされている支援ですとか地域の資源を繋ぎ合わせる場としてラウンドテーブルを実施してみようというのが今のあの時点だというふうに考えております。

ここからは他に見てきた成果を少しご紹介させていただければと思います。

すいませんはいご参加いただいている西村さんの写真が出てきたんですけれども、エンジョイシニアの大文化祭ということで、これはですねお互いに知らなかった、もともと知らなかった方同士がですね「希望のシナリオ」実現プロジェクトで仲良くなってですね、取組が生まれたという事例になっています。

高齢者のために何かしたいと思っていた西村さんが、この地域包括支援センターの小林さんの力を借りて、地域のセンターのですね地域交流スペースを使ってマルシェを実施した事例になります。

コンテンツがあるんだけどやる場所がない、地域活動場所がないっていう方と、あの場所があるけどコンテンツがないっていう、両者がですね支援をし合って、新しい取組に繋がったというまさに市民創発の素晴らしい事例だというふうに考えています。

続いてですね花の台町内会の広報誌、まあこれは小口さんのお話でございますけれども、こちらと同じく現地ツアーがですねきっかけになって生まれた取組事例でして、花の台町内会のですね広報誌をより読んでもらうために、小口さんは町内会以外の記事も掲載すると、みんなに読んでもらえるんじゃないかということを考え

たと。

そういった記事を書いてくれる人を探してた中で、この現地ツアーでですね、オオカミの護符という書籍ですとか映画コンテンツを持つ小倉美恵子さんと知り合いまして、その方に記事を寄稿していただいたということになります。

これも広報媒体を管理してる小口さんとコンテンツを持っている小倉さんがお互い支援し合って生まれた素晴らしい取組なんだろうなと思っています。

最後になりますけれども、こちらまちかどシェアオンラインというイベントになってまして、この取組はですね元々あのまちの資源を多くの人が行き交う場所で紹介したいという思いをお持ちでですね、駅前の場所で、地域の方が作った手作り品を売ったりとか野菜を売ったりとかっていう、していたまちかどシェアっていう取組がもともとあったんですけれども、それがですねちょっとコロナになってしまってなかなかできなくなってしまったと。

ただその中でも何かできることはないかということを検討して、動画配信に詳しいさぎ沼商店街の佐々木さんという方の力を生かしてですね、オンラインでまちの資源を紹介する取組にチャレンジをしたと。

この危機をきっかけにして、それを乗り越え市民創発に繋がったという、あの事例なのかなというふうに思っています。

またこの取組をきっかけにですね、オンラインで何かいろんなことできることあるんじゃないかということで、ほかの取組にも繋がっていてさらにそこでも市民創発が生まれているっていうことがあるのかなというふうに思っています。

この三つの事例からわかるように、それぞれ持っているものが他の人の支援に繋がる。

地域の資源同士が繋がればより多くの市民創発が生まれてくるのではということがこの取組を通じて見えてきたのかなというふうに思っています。

すいません。

11月13日に開催するのをぜひご覧いただければと思います。

(26:37)

最後にちょっとなりますけど長々と説明しましたが。

今回の地域デザイン会議というものをあわせて実施しますので少しご説明したいと思います。

これ地域デザイン会議で何？ってなりそうなんですけれども、新しい参加の場という意味とイコールでまたあの区における行政への参加ともちょっとイコールになってまして、ちょっと愛称ができた関係で複雑になりますけども、みんなイコールだと思っていただいて大丈夫です。

市民が地域課題の解決に向けて意見や提案をするために主体的に話し合いの場に加わるということ、これまで6期12年間にわたって実施してきた区民会議が担ってきた機能になります。

区民会議自体はですね附属機関で、各区に設置しておりました。

委員が20名以内、任期2年という形でやってきたんですけれども固定的に定めるのではなく柔軟により多様な市民意見を聞くことができるしくみにしようということで今回の見直しが行われたところでございます。

今回はですね地域デザイン会議のテーマとしまして、課長からもご説明あったんですけども、公共施設の地域化というテーマを取り上げています。

これからこの後詳しく市民文化局のほうからご説明させていただきますけれども、公共施設の地域化はですね地域課題の大きな課題である場所の問題を、すごく前に進めていただく、いける取組だというふうに思っています。

これを進めるためにはですね行政自身はその施設の管理の基準ですとか、その運用を整理したりとか見直したりっていうことは今後どうしても出てくるということで、今回地域デザイン会議のテーマとして皆さんと一緒に検討していきたいというふうに思っております。

ソーシャルデザインセンターとかですね、地域デザイン会議とかすごい色々あってわかりづらい部分もあるかと思うんですけども、皆様と一緒に取り組みながら進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いします。

私の方からはこれで終わりにになります。

00:28:48

山城：

皆さんこんにちは市民文化局の協働連携推進課の山城と申します。

私の方からですね、あの公共施設の地域化については簡単にですね、ご説明をさせていただきたいと思います。先ほどから少しずつあの地域化って言葉が出てきて、なんとなくイメージ湧いたかなと思うんですけどなかなか聞き慣れない言葉だと思います。

簡単に言うとその図に書いてあるみたいですね、まちのひろばを創出することに向けて既存の行政が持っている公共施設をですね、地域の皆様にこれまで以上に活用していただいて、より使いやすい公共施設にしていて、それで地域の皆様にとっての活動場所が増えていくこういう取組を地域化というふうに我々は呼んでおります。

この公共施設なんですけどもこちらにあるみたいですね学校とか、市民館ですとか、あとは庁舎ですね区役所とか、そういった建物からあと公園とか河川とか道路とかそういった外の空間、これらも全て公共施設含まれております。

実際に取組を進めている内容なんですけども、主にですね、こちらに書いてある4点の方向性をちょっと進めております。

まず基本的なことなんですけども、あの利用時間外や余剰スペースを活用していきましょうということで、公共施設って、基本的にはですね、もともと使う目的だったり、使う対象だったりっていうのがあるんですね。それらの本来の利用が阻害されない部分について、ちょっとあんまり使われてない場所とか、時間帯とか、そういったところをもっと地域の人に開放して使いやすくしていきましょうという方向性で1つやっております。

2つ目なんですけども、地域のニーズに応じた柔軟な利用をしていきましょうということで、なるべくですね、地域の方とか利用者の方の声をよく聞いてどうやったらもっと使いやすくなるかなっていうところを一緒

に考えていきましょう。

場合によってはその使う方たちが主体となってですね、ルールを作ったりとか、あるいは自分たちで管理運営をしていったりとかそういう方向性でやるとより使いやすくなっていくよねというところでやっております。

3 点目なんですけれども施設間の連携がより進むといいですねということで、各施設ですねいろんな情報を持ってますのでそれらを共有することによってより新しい使い方ができるんじゃないかとそういう方向性でやっております。

4 点目最後なんですけれども、市民活動団体等に対する支援の充実ということで、公共施設の多くはですね例えば営利を目的とするイベントだったり、そういったものは禁止されてる場合が多いんですね。

ところが、営利を目的としないいわゆる市民活動。

そういう活動であれば、販売ができたりとかそういう事例もあったりします。

あるいはですね、行政が共催をする後援をするということで、道路を使ったですね、イベントなんかもやりやすいそういう事例もあったりするので、なるべく行政としても、そういう活動を応援していきましょうよという方向性を立てております。

で、何よりもですね、公共施設の地域化を進めるためにはですね、まずは地域の皆様に、公共施設の柔軟な使い方の事例ってものを知っていただくことが大切かなというふうに考えておりまして、この施設は自分たちは使えないよねとか、この施設でこんなことはできないよねっていう多分思い込み、あるいはその固定観念というのが一定あるかなというふうに思うんですけれども。

それをですね、実はここでこんな使い方もできるよっていう事例を紹介させていただくことによって、その地域の皆さんに知ってもらう、ここでもしかしたらこんな使い方もできるんじゃないかとか、ここで僕たちもこういう使い方ができるんじゃないか。

そういうですね、新たな気づきとか、発見をしていただけたらすごい嬉しいなというふうに思っております。実はですね毎月今年の市政だよりですね、公共施設の柔軟な使い方っていう事例をですね、ちょっとずつ紹介をさせていただいております本日ちょっと5 事例ほど簡単に紹介をしてみたいと思います。

1 つ目なんですけれども、これあの中原区の市道小杉 21 号線、道路ですね、道路を使った社会実験の様子なんですけれども、これ普通にですね車が通ってるような一般の道路なんですけど、これは歩行者天国化して写真にあるみたいですね道路上に自由に落書きができる広場を作ったりとか、あるいはちょっと芝生を持ってきて、子どもたちがこう自由に寝転がったり走り回ったりとか、そういう空間を作ったりとか、ちょっと写真じゃないんですけど、あのベンチを持ってきてですねその皆さんが憩いの場になったりとか、そういう取組をしたりしています。

こちらがですね川崎区の京町第三公園の事例なんですけど、これ立派な花壇ができてるんですけど、これはあの日は全然全く使われてない汚い砂場だったんですね。

これをそのまま放置しておくのはもったいないってことで、地域の方たちが行政の方とちょっと掛け合ってですね、自分たちで花壇を植えて自分たちで管理するのでこういう風にできないか、それでこのように花壇に生

まれ変わった。

地域の人たちの声によって公共施設が変わったそういう事例になります。

3つ目なんですけれども、これあの河川の事例ですね、多摩川の河川敷で火を使ったイベントができるということで、これもキャンドルナイトイベントを市民の方がやった事例でして、アコースティックライブが行われたりとか、すごい楽しいイベントができたんですけど、これあの多摩川の河川敷の事例なんですけど。

あの街中を流れるもう少し小さい川とかでもですね、様々な使い方ができまして、ちょっと写真がないんですけども、あの中原区なんかではですね、川べりを使ってその河川のところで音楽ライブをやった、そういう事例もあつたりしますので実はあの河川でもですね、いろんなことができるんだと、そういう事例になります。

4つ目なんですけれども、これ庁舎を使ったイベントの事例ですね。

多摩区の生田出張所なんですけれども、これ今年度ですね、リニューアルオープンいたしまして、これまでにないあの柔軟なですね、機能を持った庁舎に生まれ変わってキッチンスペースがあつたりとか、お子さんが遊べるようなですね多目的スペースがあつたりとかそのような庁舎になっております。

これ 7 月にですね、行われたリニューアルイベントのときの様子なんですけれども、様々な団体さんがですね、ブース出展をさせていただいて、この写真のようなですね、イベントが行われたと。

なので庁舎を使ってこういう取組ができると、そういう事例になります。

最後の事例なんですけれども、こちらの多摩区の登戸の区画整理地の事例になります。

登戸では区画整理を行っておりまして、道路とか空き地が生まれているんですね。

その空き地を有効活用しようということで、写真にあるみたいですね。

移動式のキッチンカーですとか移動式のあの本を本屋さんですねが出店したりとかしてですね、そういった空き地を活用したにぎわい作りをしているそのような事例になります。

ちょっと今日はですねこの 5 点の事例の紹介だけだったんですけど大事なことはですね、公共施設の柔軟な使い方について皆さん知っていただいて、もしかしていつも自分たちが使っている、あるいはいつも目の前を通っている公共施設を、こんな使い方ができるんじゃないかそういうアイデアをぜひ膨らませていただいて、我々行政もですねなるべくそれが実現できるように一緒にお手伝いというか、一緒に考えていけたらいいなというふうに思っておりますのでよろしくお願い致します。

説明は以上です。

00:36:38

千葉：

ありがとうございます。

これで前半のインプットの最後になります。

宮前区らしいソーシャルデザインセンター像とはってということで、簡単なんですけど。

ちょっとこれってもう皆さんの手元に行ってます？

要はですね結構この冊子多少分厚いですよね。

あのみんなで今まで考えてきたことがもうほとんどここに詰まっているので、ソーシャルデザインセンターって例えば多摩区でしたら区役所の 1 階にそういうセンターができていたり幸区だったらまちのおとってという施設ができていたり、そういう施設があってそこに人がいてっていうソーシャルデザインセンターももうできてきているんだけど、今まで話してきたことって何かそういう場所ありきではないよねっていうことが今までの議論だったのかなと思ひまして、ちょっと仮説を示してみたいと思います。

区内の豊かな活動っていうのは、さっきの本にあります例えば相関図を書いただけでもうすごくいろんな人たちがいろんな活動しているってことがあると、こう豊かな活動を活かしていく。

で主体的に活動する。

既にやってる活動とか人が繋がることで、いろんなことが解決できるということが宮前らしいしくみなんじゃないかと、そういうしくみとか仕掛けを作っていくっていうことが、これから詰めていくことなのかなというふうに思っています。

で、またこの図がすごく出てくるんですけど誰がっていうときにこういうラウンドテーブルってさっきから呼んでいるような、あのいろんな人たちが一堂に会する場所があるといいのかなっていうふうに思っています。これをどうやって運営するかっていう運営する人とかも必要になると思うんですけど、多様な主体っていうのがまず主役になり、そのみんなが協働したり連携したりしていくっていうことが「誰が」なのかなと思います。

どんな形でっていうのがそのラウンドテーブルということで、多様な主体が協働連携するためにでも宮前区のねそういう人たちを例えば相関図に載ってる人たちを全部ラウンドテーブルしようとするとうらんどで輪を作ってもラウンドテーブルにならないぐらい多分大きくなっちゃうと思うんで、もうちょっとイメージとしては、みんなが集まって話をしているっていうのを書かせていただいています、何かそういう形のものなんじゃないかと思っています。

どんなこと支援をっていうときも、実はこれ何ページでしたっけ。

58 ページか、この冊子の 58 ページにみんなでそのアイデアの柱っていうのを整理したんですけど、この 6 つの柱っていうのはみんなから出てきたものを 6 つぐらいになるよねって言って整理したもので、もしかしたら今後検討していくときにもう 1 本とか柱が出てくるとかっていうのはあるかもしれないけど、あのとき考えたことっていうのが宮前の柱になりそうだねっていうことでここに貼らせていただきました。

ちょっと読んでみるとね、人やノウハウを繋ぐという柱、あと場所のシェアや活用場所をみんなで使おうっていう話、あと情報発信の支援活動の運営を支える、そして次世代の担い手を育てる、宮前区らしさを応援する、こういったことを基本の機能にするのが宮前のソーシャルデザインセンターではないかというふうに仮説を立ててみました。

どこでっていうのはやっぱりその地図に整理したように、特定の場所ありきではなくて、いろんな機能を必要とところで実現できるっていうことなのかなというふうに思っています。

で、実際思い返してみるとこのまち歩きの様子とかもう全部ここに紹介させていただいたんですけど、本当に私も宮前で何かあるときにこれを見てここの場所だとかここにいた人だとかっていうふうにこれをすごくあ

の使ってるんですよね。

結局、まち歩きをしてみたときに普段だったら普通のお家だって思ってたところが実はすごい場所だったとか、そういうことがどんどんわかってきて、そういうことをいろんな人たちがしっかり使えたりするっていうことがこの「どこで」が広がっていくことになるのかなというふうに思います。

そしてどうやってっていうことで、多様な資源、人やノウハウ、場をみんなで持ち寄っていく。

宮前区のポイントとしては行政からの補助金などではなく、多様な主体が持ち寄る資源を活かしながら運営できたらいいなっていうふうに書かせていただきました。

(00:41:04)

今年度の目的と進め方についてということで冒頭に私説明したことをもう一度ここで説明させていただきます。

宮前区らしいラウンドテーブルっていうものを今仮説として示してみたんだけど、実際にやってみたらどうなるんだろうっていうことをこのワークショップでやってみたい。

それをもとにソーシャルデザインセンター像というのを整理したいと思っていて、もう1回そこですね、もう1回この今日この中に入る人たちがここに集まっていると考えています。

区役所の職員、市の職員とかもね、います。

それはこの一つのピースとして入ってくるっていうイメージです。

そしてですね、後半に詳しく紹介しますが、お三方というか3組のプロジェクトオーナーっていうまた新しい言葉が出てきますけど、この言葉のことは今日はワークショップでしか使わないかもしれないんで、あのそんなにぐらいいいんですけど。

話題を提供してくれてこんなことしたいですっていう人を3人、3組来ていただいています。

その人の話を聞いて、みんながこのラウンドテーブルの一員だと思ってグループワークをしたいですね。

ただそれだったら私の知り合いのこれがあるよとかこの場所を使っていよいよとかね、何かそういうことがどんどんテーブルの中で出てきて、そして、じゃあ試しに1回やってみようよみたいな感じで、その3つのお試しラウンドテーブルっていうプロジェクトみたいなものができてくるのかなと思います。

ただ今年度ってもう今11月なんで、本当にこれを実現しようとしたらもしかしたら何年かかるようなこともあるかもしれないので、本当にお試しということで企画を考えられたらOKっていうものもあるかもしれないし、ちょうどやるイベントがあるんでそこで試してみようっていうことでもいいそんなに大げさに考えないで、軽くやれていいと思っています。

ということで改めて進め方です。

今日、それはキックオフでやっていてプロジェクトについてかなり長い時間かけて情報提供させていただきました。

それをもとに12月から2月ぐらいまでの間に、これはテーブルで決まることによっていつどこで何をやるのかはこれから決まることです。

何かやるんですねプロジェクトをどのように応援できるのか一緒に考えよう、打ち合わせを一回やろうとかね。あとイベントがそうだ、何月何日にやるんでそこでみんな出してみようとかね、そういうことが決まってくるのかなと思います。

そのイベントに参加したり、あるいは実施したりしてお試しラウンドテーブルはどうだったのかここが大事なんですね。

試しにやってみることを通して、これは本当に宮前区版のソーシャルデザインセンターだとしたら何が問題なのか、何が足りないのか、もっとこういうことをしっかりやしないと使えないんじゃないかとかね、そういう新しいものを作るのでいろんな目線でこう振り返ってほしいなと思っています。

それをアンケートいただいてこれ私どもの方でまとめてこういうことが課題だとみんなから寄せられてましたっていうのを、この3回目ですっかりここに上げて、ソーシャルデザインセンターってこうあるべきだという仕上の議論をしたい。

という流れになってます。

ということですね、あの三つのプロジェクトについては休憩を挟んで詳しくご紹介しますが、その辻さんと浅野さんっていう組み合わせでテーブル1をお願いしたいと思ってます。

公園とマルシェっていうので拡大まちかどシェアって書いてますけど詳しくは後半説明させていただきます。

で、西村さん、シニアが気軽に立ち寄れる場ということで宮前区版道の駅？ってクエスチョンしてますけど作ってみようというのがあのテーブル2です。

テーブル3はコジマさんとアクロスさん、アクロスソリューションさんと、あと森山さんっていう区役所の職員もいます。

この組み合わせは一体何なのだということを、後半で説明したいんですけど、民間が保有する地域の場と地域活動をマッチングしようということですね。

そこで民間のっていう話が出てきているけど例えばここを通してさっき公共施設の地域化っていう話がありましたけど、例えば公園っていうのも公共施設ですよ。

ここももしかしたら公共施設を使って何かやるってことも出てくると。

なのでこの議論の中に多分串刺し的に公共施設の地域化であるとかそういうこともどんどん出てくるんじゃないかと思っています。

はい、ということの後半さらに詳しく説明します。

00:45:30 [音楽] 第2部：お試しラウンドテーブルをキックオフしよう

00:45:35

千葉：

今度は三つの部屋にわかれてグループワークをしたいと思うんですが、ここのプロジェクトオーナーっていう人を3組、今回に来ていただいています。

で、皆さんはラウンドテーブルのメンバー、ここのメンバーだということで参加してほしいと思っています。

で、検証したいことっていうのはこれまで検討で求められてきた機能を果たす上で、こうやってラウンドテー

ブルの方式って使えるのっていうことをどの程度有効なのかということをしかり結果考えたいなと思って
いると。

実施する上で課題、話しやすいとかね、情報出しやすいとかどういうふうに話題提供したら何ができるのかと
か、あと今後どんな体制が必要になってくるのかとかいろいろ出てくるんじゃないかなと思います。

で、これも繰り返しになるんですけど来年3月までということなので、実際にお試し実施することにすごい本
格的になると、例えば間に合わないようなものだと思うんで、3月までにできることのお試しが、なされると
いいなと思っています。

で、何をやってもきっとそこには検証できる材料というのができるというふうに考えていると思ってください。
では早速プロジェクトの紹介をさせていただきます。

まずテーブル1です。

公園×マルシェで拡大まちかどシェアということで辻さんと浅野さんにでは早速お願いしたいと思うんです。

00:47:05

辻：

宮前まち倶楽部の辻と申します。

本日はよろしくお願い致します。

今度計画しておりますまちかどシェア拡大まちかどシェアについてご説明させていただきます。

皆さんの中でも本当にたくさんの方がこれまでも一緒に参加してくださったのでよくご存知だとは思って
すけども、もともとまちかどマルシェという言葉で、その後まちかどシェアというふうに名前を変えまして、
やっております。

まちかどシェアとはまちの資源を発掘、可視化するしくみです。

もうそれだけのこと、それだけのことって言ったら変なんですけれども、もう気持ちは本当に単純で、まちの
資源がいっぱいあるのにもったいないなあ、誰も皆知らないなあ。

それを、他の人に知ってもらうためにどこで見せたらいいかな、公共空間、屋外の公共空間だったら人が来る
から見てもらえるかなっていう、もう本当にすごく単純な発想でやり始めました。

だから公園とか駅前広場とか、スーパーの横の広場ですとか、そういったところでまちかどシェアはもう全11
回ほどやっております。

それとこれはちょっとさっきのまちかどシェアのしくみのさっきもあのご説明いただいたのですごくよく似
てるなと思って、ちょっと飛ばそうかと思ったんですけども、時間があるのでちょっと説明させていただき
ます。

本当にさっきも言ったように私達の発想はすごく単純で、まちの資源をいっぱいあるから発掘しよう。

これは日常的にやっています。

だいたい4、5年で500回ぐらいいろんなところに行ってだからもう常に何か皆さん、この人知ってるよ、み
たいな感じで、やっぱり実際に会ってその場に行かないとなかなか信頼関係が築けないので、それをやって
おります。

これ日常的な活動でそれでそれを可視化するしくみを年に3、4回いろんなところでやっているという。

それでやり方として私達が特徴的だと思っているのはプレイヤー型とプラットフォーマー型にわかれています。プレイヤーというのは皆さんいろんなスキルを持っていたコンテンツを持っていたりして、そこのまちかどシェアで可視化される対象となる方々ですね。

お母さんたちでいろんなものを作っておられたり、佐藤さんいらっしゃいますが似顔絵を描いてくださったりとかいろんなことをやったださる、そういうスキルを持ってる方々。

そしてプラットフォーマーっていうのは、宮前まち倶楽部のように、それを場所を探したりとか、それを運営する側ですね。

それを私達はプラットフォーマーと呼んでいて、プレイヤーとプラットフォーマーと一緒にコミュニティプラットフォームを作ったのが、まちかどシェアだと思っています。

それで今度あの町会の先ほども名前が挙がっていました花の台町内会の小口さんという方が本当にあの応援してくださいまして、3年間町会と一緒にもっといろいろと話したりいろんなことをしてやっと、今年12月5日に町会との公園、町会がいつも管理してくださっていて掃除をしてくださったり木の剪定とかしてくださっている公園を貸していただいて、まちかどのシェアをやらせていただくことがようやく決定しまして、今年の12月5日に、やることになりました。

それでそこのメッセージとしては、町内会と市民活動を一緒にやるんだよっていうことと、公園ってすごい資源だから使おうねって、そしてその近くに住んでる方たちに、自分ももしかしたら出番あるかなって思ってもらったり、居場所があるなと思ってもらいたい。

それから子育て世代を応援してるっていう雰囲気をすごく醸し出したい、子どもは町全体で育てようねっていうイメージを公園に来てる人たちに知らせたい、それからシニアになっても楽しく安心して住めるなってこんな町だったらだったらいいなと思ってもらいたいというようなことを考えています。

それで内容としては今、子育て世代などのさっきプレイヤー型って言いましたけれども、そういったお母さんがたに出ていただいたり、まちのパン屋さん、まちのお店屋さんにもちょっと出店していただいたり、それから地球温暖化推進センターと言って、それぞれの家庭のエコ診断をスマホ1本でやったださることをずっと川崎市で頑張ってるチームがあるんですけど、その方に来ていただいて少しSDGs関係をやったり、地域包括ケアセンターの方とまだちょっとお話できてないんですけど、そういった健康診断とかシニアの方の相談とかもできればいいなとか。

あと宮崎台のすごく綺麗な花をたくさん知ってる方がいるので、そういう方に花の紹介をしていただいたりとか、まちかどピアノどうかとか、今すごくアイデアがいっぱいあるんですけども、ラウンドテーブルでのメンバーになってくださった皆様および、そうじゃない方も含めて皆様にぜひあの自分はプレイヤーでこのことできるよとか、自分はプラットフォーマー型でマネジメントだとか縁の下で力持ちで、このお手伝いできるよとか、そういうものがあったら、今回ぜひあの今日教えていただいて、明日町会との打ち合わせがありますので、ぜひよろしくをお願いします。

で、公園という資源をみんなで使って何ができるかなっていうのを考えてみたいと思っています。

駆け足でしたけどよろしくをお願いします。

00:52:25

千葉：

ありがとうございます。

テーブル1はおちば公園で12月5日に開催するまちかどシェアを実施するんだけど、そこでプレイヤーとプラットフォームっていう考え方でどちらの立場でも関わっていただいて、そのことによってこう何だろう、ラウンドテーブルとしてはどういうことを検証したいとか期待したいっていうふうにお考えですか。

00:53:00

辻：

今回町会の方と初めて一緒にやるんですけれども、あの町会の方みなさん少し年齢が上の方が役員の方が多くて、あの公園でこんなことができるとか、公園でこういうことすると、実は若い子育て世代の方たちもすごくあの関わっていただけるとか、そういったことを見ていただきたいっていうのがすごく希望しています。

ですから、公園っていう場所のその特異性もあるんですけれども、全然まちの中に子育て世代って出てこないよねって、町会の方たち思っている方がすごくいらっしゃるんですけれども、実はそうじゃないかもしれないよって。

もちろんプレイヤーとしても出てきてくださるし、プラットフォームとしてもやるっていう人もいるかもしれないよってそういう可能性を感じてもらえるような場にして、地域のあの下支えして下さってる町会の方たちと、それから市民活動とそれから本当に普通の住民、同じおちば公園で2018年の10月にまちかどマルシェをやったときの写真なんですけれども、本当に同じ公園で今回やるんですけどこれはハロウィンマルシェと言って、ハロウィンの飾りをたくさんやって、やっぱりすごくたくさんの方が来てくださったんですね。

で、この様子を、町会の方に見ていただきたい。

そうすると何か町会もすごく違うやり方で何かできるかもしれないとか、そういう若い世代と一緒に何かできるんじゃないかという可能性を感じていただきたいっていうのが一番の希望です。

それで、それは運営側の希望なんですけれども、実際に公園に来てる若い世代の方すごく多いんですね。

その方たちにこういうことってやるんだって、さっきのその地域化っていうのを話がまさにそうだと思うんですけど、こんなことまでやれるんだって。

そうしてこういう場所って私達が住んでるところにあって嬉しいなって思ってもらう、それもすごく大事なことだなっていうふうに思っています。

00:55:08

千葉：

はい、ありがとうございます。

00:55:10

辻：

そのためのご尽力いただけるパワーをぜひ、そう、欲しい。

00:55:19

千葉：

はい、そうですね、既に辻さんのところで実施もしているしやっているのだけど、このラウンドテーブルこのチームが入ることで、ちょっと新しい関わり方が見つかるっていうことも検証できるし、あとプレイヤーってというのは一芸に秀でた人ってことだと思うんだけど、むしろ裏方に入って現場に入る目線っていうのをきっちと検証したいっていう、そういうこともあるってことですね。

00:55:45

辻：

そうですね。

私達はいつも本当にすごく数人のあのプラットフォーマーでやっていて、あのやりっぱなしなんですね。

写真も本当にこういう写真が1枚2枚あるかぐらいで、写真も撮る時間もなくて誰がどのように来てらっしゃるかもわからず、ただやって終わるみたいな感じなので、もしプラットフォーマー型とか運営型の方に手を挙げてくださる方がいたら、もう少しその全体的にはどういうふうな流れになってるとか、本当にどういうふうに来てくださってる方は考えてくださってるのかとか、そういったことはゆっくり皆さんの話を聞いていただいたりとか、そういった方をぜひ募集したいです。

00:56:34

千葉：

はい、ありがとうございます。

一応ですね、あのテーブル1に行ってくださいという人を、もう受付で振り分けてはいるんですが、実施するね12月5日空いてるよっていうもうここ全員入ってくればぜひ参加っていうこともあるという意味だと思いますのでそこは柔軟にテーブルのどのテーブルに行くかってことの判断をしていただければと思います。ありがとうございます。

00:56:59

辻：

ありがとうございます。

00:57:06

千葉：

ちょっと私、最初に言うの忘れてたんですけど、話題提供をするときに何を実現したいかっていう目的とか、あとこのラウンドテーブルでみんなに何を期待するかみたいなことをお伺いできればと思ってます。よろしくお願いします。

00:57:22

西村：

皆さんこんにちは。

宮前区の土橋に住んでいます西村ルミと申します、今日はよろしくお願い致します。

今回この会参加させていただくにあって、自分も宮前区に25年くらい住んでいるんですけども、実は私の両親も、そして義理の母も同じ宮前区に住んでいます。

なので、この先もずっと多分宮前区に住み続けるんだらうなというふうに考えています。

この先30年40年宮前区に住むとしてどういう人生を送りたいかなってちょっと考えたときに、私は納得いく人生を送りたいというふうに思っています。

これが一番最高のゴールだと思っています。

人によって納得いく人生ってのはいろいろあると思うんですけども、私にとってはこちらのスライドにある7つの要素を続けていくこと、簡単に言うと、最期まで笑って悔いのない人生を送ることが納得いく人生なんだというふうに考えています。

じゃあ納得いく人生を送るにはどうしたらいいかっていうとやはり健康でなくてはならないというふうに考えております。

いわゆる健康寿命というのを長くしなくちゃいけないなと思ってるんですけども。

いわゆる運動とか睡眠とか食事とかよく言われていますが、例えばあと2つ大きなポイントがあって一つはコミュニケーション、もう一つは情報収集、こういった5つの要素が長くシニアになっても得られるような、健康でいたいなというふうに感じました。

宮前区の道の駅って何っていうことなんですけれども、私がこの5つの先ほど5つのポイントをちょっとこう続けていくためには、どんな実体があればいいのかなって考えたときに、例えば道の駅っていうようなものを想像しました。

道の駅って皆さんやっていたり、あとはその何だろう、ハンドメイドがその地元の方が作ったハンドメイドのものが売っていたり、してると思うんですね。

それ以外に例えばカフェがあって1人でゆっくりしたいっていう方もいれば、何か仲間でお喋りしたいっていう方もいると思います。

そういったものもあったり、あとは先ほど5つのポイントで情報を収集することがシニアの方ちょっと苦手みたいなんですけれども、そういったものがシニアの方にとって必要な情報が提供できる、置いてある、取っていきけるっていうものがあるといいなというふうに考えています。

で、道の駅って簡単に言っちゃってるんですけども、いわゆるコミュニティカフェみたいなものは宮前区にもあるんですね。

それと何が違うのかとか、あとは場所は常設するのか、それとも単発ですごい行っていくのかとか。

あとは先ほどの麻里子さんのイベントにもあったプラットフォーム、あの人手ですね運営する人はどうするのかとか、資金をどうするのか、その利益を得るためには継続するためにはお金が必要なので、そういったことをどうするのかっていうのがまだ私の中でも全然答えに見えていなくて、どういう形がいいのかなっていうのがうっすらしています。

なので、今日こういう機会をいただいたので、ぜひそういったところを皆さんと考えて、何か形にできたら、形に近づけたらなあというふうに思っています。

ちょっと説明が下手ですみませんでした。

以上です、ありがとうございました。

01:01:21

千葉：

ありがとうございます。

西村さんと事前に話をしていたときに、そのシニアの方が宮前にたくさんいらっしゃるんだけど、そのイベントで集まれるっていうことがあるかもしれないけど、例えば日常的にそうやって立ち寄って情報を得たりとか、コミュニケーションが取れるっていうことがあったらいいよね。

道の駅って言うのは例えば地元の野菜がそこで買えたらとか、今日の晩ご飯 1 人分で買えたらいいとかね、なんかそういうことコミュニケーションもあったらいいなとかっていうふうに話しているうちに例えば道の駅的なものっていうのが出てきていると。

で、例えばそれを実現するためにはこんな方法もあるよね、こういうやり方もあるよね道の駅って言葉から離れても、例えば今言ったその納得のいく人生に繋がるようなものが区内に作れるんだったらどんなメディアでも歓迎そういうイメージですよ。

01:02:17

西村：

はい、そうです。

道の駅ってのはちょっとわかりやすく、私が最初にぱっとイメージしたものだったので、こういうようなアウトプットなんですけれども、ここの5つの要素ですね睡眠というのは家でできると思うんですけど食事とか運動あとコミュニケーションと情報提供ってのが、最後の奥の2つ右側の2つが割と少ないというか、実現しにくいのかなっていうふうに思ったので。

この2つができる場所なのかものなのかネット上なのかちょっとわかんないんですけれども、何かそういったものをシニアの方に限らずシニアの方って思ってますけれども、多分シニアの方にいいものは他の方にもいいものだと思うので、そういったものが提供できる形じゃないかなっていうのを考えています。

01:03:14

千葉：

はい、ありがとうございます。

テーブル3、民間が保有する地域の間と地域活動をマッチングしようということです。

01:03:22

清水：

改めまして皆様こんにちは。

私、株式会社コジマ営業本部営業部の清水と申します。

私の担当としまして、神奈川店舗のですね、店舗を12店舗担当させていただいておりますので、本日ぜひよろしくお願い致します。

まずあの本日発表させていただく内容とこの場に立たせていただいでですね誠にありがとうございます。

先ほど申し上げた通り私あの営業でございますので、大変恐れ入りますがまずちょっとお店の紹介からさせて

いただきたいと思います。

恐れ入ります。

私どもですねコジマビックカメラ梶ヶ谷店という形で 246 の交差点のですね梶ヶ谷交差点のすぐそばのところにお店を出さしていただいて、今現在あちらの店舗ですね 19 年間営業させていただいております。

こちらの経営理念にもございますお客様の暮らしをより快適に、より便利に、より楽しくしますという理念のもとですね、通常やはり家電量販店でいいますと、当然やっぱり電気屋ですので、冷蔵庫、洗濯機、テレビ、パソコンっていうところが中心なんですけど、毎年毎年ですねお店をカスタマイズさせていただいて、地域のお客様によりあのご利用をさせていただいたりであったりとか、あとは地域のお客様に喜んでいただくっていうところでもですね、こういった形で医薬品であったり、お酒、時計であったりとか、自転車、あとは最近ですと枕、お酒の扱い等ですね、というのをさせていただいております。

非常にアイテム数も増えてきてですね、どちらかというと家電量販店プラスアルファやはりこういったどちらかというと何でも屋さんというような形になっておりまして、ぜひ皆様の御用聞きというところですね、店舗構えさせていただいておりますので、ぜひとも今後もよろしくお願いしたいと思います。

このときですね今回ちょっと順番変動して申し訳ございませんが宮前区様とですね、タッグを組まさせていただいてその中にアクロスソリューション様ですね、ご紹介いただいた中で地域密着ということですね、取組をさせていただいております。

今回のコジマルシェという形で名前をつけさせていただいて、行えるとしていただいた目的としましてはまず一点目が、SDGs でもございますが、持続可能性というところですね、まちづくり並びに後はパートナーシップというところですね、地域と地域の人を繋ぐというところを、取組をさせていただいております。

でやはり昨今コロナ禍の中ですね、なかなかイベントであったりとか、祭事ごとお祭りごとっていうところがなかなかできない規制されているっていうところでも、感染対策をしっかりした中でですね、やはりまちを元気にしたい、にぎやかにしたいっていうところですね、目的として行わせていただいております。

先ほど申し上げましたその地域密着イベントという形で、手前ども並びに後は宮前区様としっかりとタッグを組まさせていただいてですね、宮前区様からご紹介いただいた企業様とですね、イベントの方を行わせていただいております。

最終的には当方にも来店動機っていうところと、あとやはり皆様がお店をお出しいただくことによってですね、ご家族並びにあとは一緒に行ってみようかなっていう、さらにプラスアルファですね、楽しさが伝わるのかなと実施を行わせていただいております。

で、実際に 9 月の 25、26 日とですね、当店の前面のところですね、屋根なしにはなるんですが広い広場がございます。

こちらの方でコジマルシェという形で、総勢 13 店舗様ですね。宮前区並びに後は高津区の方ですね、ご参加いただいてコジマルシェという形で開催をさせていただいております。

非常にやはり多くのお客様にお喜びと、あとやはり本当にですね、こちらに今日来ていただいている方もいらっしゃるんですが、ご参加いただいて、あの結果としてですね本当にお客様、並びに地域のお客様にですね、お喜びをいただきましたので感謝申し上げます。

で、私どもとして今取組をさせていただいている中でこの 2 枚目の写真なんですけれども、私共の 1 階の売り

場エントランスを使ってですね、あの地域連携というところをさらに密に行わせていただきたいと思いますと思いまして、あの無料で掲示板コーナーを作成しております。

例えば今現状入れているのが、例えば地域のレストラン様のご紹介のポスターであったりとか、あとは地域の少年野球の部員の勧誘ですね。

そういったもののご掲示を無料で行っていただいておりますので、ぜひ皆様もそういったものに関心がございましたらですね、お問い合わせの方いただければと思いますので、よろしくお願い致します。

で、今後の取組としましては、やはりこういったイベントごと1回で終わってしまうとですね、なかなかやはり継続性というところができないというところがありますので、定期的なイベントの連携っていうところをですね、定期開催を行わせていただいたりとか、あとは連携という形でも、当然ながらしていただいたお客様に対して、並びにコジマを利用していただければですね、その方限定でのクーポンという形で、よりへの双方がWin-Winになるようなですね、取組を強化していきたいと考えております。

やはりここにも3番にもありますが今後はやはり私達リアル店舗で営業させていただいておりますので、実際に物を触ったりとか、体験したり作ったりっていうところをですね、より具現化をしていって運用を行わせていただければと思っておりますので、引き続きこちらの方でご参加させていただいた中でですね、よりよいものを作り上げて行きたいと感じております。

で、あと本日アクロスソリューション様に来ていただいておりますので、マイクを繋げさせていただきたいと思います。

01:09:22

石崎：

改めましての皆様アクロスソリューション石崎と申しますどうもよろしくお願い致します。

この度ですねコジマ様の方からご依頼というかいただいてコジマルシェというイベント企画というかお手伝いをさせていただいた会社になります。

生業といたしましてはいわゆる人材派遣業というものをメインにやっております、その他の不動産ですとかあとは直近では飲食業とかもやっている会社になります。

ちょこっとだけですねせっかく来たので爪痕を残させてください。

一応弊社ですね北は北海道から南は沖縄まで会社ございます。

あのなんで今回ですね区役所の方、行政の方をとかですね、あの巻き込んでイベントを行わせていただくかって言いますと、ちょっと私個人の話になるんですが、前職でですね、地域の行政の方だとか、あと地域住民さんと一緒にですね、いわゆるあの地方創生みたいなプロジェクトを何個か持って回しておりました。

その中でいろんなですね行政の方とあの北は秋田、南は熊本とかですかね、いろんなお話をさせていただく中でですね、本当にあの地域住民からそして行政の方そして地域企業がしっかりとタッグを組んで三位一体で取り組んでいる地域っていうのはすごく何か活気がある元気があるというような印象を受けておりました。

今回、縁あってですね宮前区様とご一緒やらせていただくというような形で実際に蓋を開けてみるとラウンドテーブルが素晴らしいですねしくみみたいな、仕掛けられてるってところで、本当にあの盛り上がっていくん

だろうなというふうに思っております。

弊社としてはですね少しこの何かプラットフォームだとかソリューションを持っているわけではございませんが皆様の架け橋になれるような何かお手伝いできないかなというふうに思っておりますので引き続きどうぞよろしくお願い致します。

01:11:28

千葉：

はい、ありがとうございます。

テーブル3としては今コジマさんとアクロスソリューションさんが話題提供していただいたようにコジマルシェということでコジマさんの前の広場でマルシェを開催した。

佐藤さんもね出展されていたりこのメンバーの中でも参加されてる方がいるんで、あの三位一体という意味では、例えばプレイヤーさっきの辻さんの言い方で言うとプレイヤーとしての佐藤さんの意見っていうのも参加してどうだったかっていうこともあるし、これからコジマルシェ2を開催するんだったら、どういうものにこのメンバーで話し合ったりしていけるかとかね、いう話があるのかなと。

あともう一つ森山さんって職員の名前もあったんだけど、その区に相談に来たときに、区の役割としてどういう繋ぎ方ができたのかっていうことについても、このテーブルで話していきながら、そしてもしかしたらコジマさんの場所に限らずね、あの企業さんと連携していくってどういうことなんだろうっていう話ができたらと思っております。

ということでですね、3つのテーブルについて話題提供させていただきました。

もしね違うテーブルのほうがっていう方がいらっしゃったらちょっと柔軟にあれしますが、名札の後に名札の中に、どこのグループに行っていただくかというのが入ってると思います。

ちょっと押しちゃったので、さっとそのグループに入ってから進め方について説明したいと思います。

移動したら自己紹介ということで、お名前とお住まいの活動エリア参加場所参加する場所などを紹介していただき、今話題提供していただいたプロジェクトオーナーからさらに詳しい話とかをね、話題提供していただきます。

気づきや感想とか、アイデア出しということで区の職員がファシリテーターをやりますので、そこでどんどん意見を出していただきたいと。

そしてポイントとしては何が決まったかっていうところで例えば次回打ち合わせをするのかイベントをやるのかわかんないけど、それを決めるっていうところが今日の着地点っていうふうに思っています。

いつどこでどうやってやるのっていう話です。

それで戻ってきていただいて発表だというふうに考えております。

では移動をお願いします。

01:13:39 [音楽] 発表

01:13:43

浅野：

まち倶楽部の浅野と申します。

それでは、テーブル1で話し合ったことを簡単ですが振り返ってみたいと思います。

私達がやっているプロジェクトは、いろんな活動をしている人がまちにいるのに全然見えていなかったってことがまち倶楽部の活動でもひしひしと感じまして、ぜひいろんな見えてないいろんな人の動きだったり資源を見えるような形でできないかっていうのがまちかどマルシェの考えのもとになったものです。

当初ですね私、辻さんがどういう流れで公園のマルシェにたどり着いたかっていう話をさっきのテーブルで簡単にしたんですけども、いろんな活動をしている人がいるのに、見えていないのはもったいないということで、どこかの場所で見えるようにしたらどうか、というふうに考えました。

そのときにそうだ公園だと、公園だといろんな人が来る、特に用事がなくても通ったりお子さん連れてきたりとか外の空間でやることで、用事がない人でもふらっと立ち寄って見える場所、そういうのがいいんじゃないかということで、まずは公園使うにはどうしたらいいのってということで、公園は道路公園センターが担当を管理しているということでそこに相談しに行ったりですね。

当時、市民館で公園の活用、公園を活用する講座っていうのやってたんですね。

そういうのにも参加したり、そして公園の清掃とかあの枝の危険な物をお掃除したりとかは町会がされているということで、町会にもアドバイスを求めに行ったりと、いろんなところに右往左往した結果、なかなかそれで3年前にさかのぼるんですけども、結果ですねいろんなちょっと端折っちゃいますけれども、やっぱり公園を使うには、町会のことを知って関わっていったところからわかることもあるんじゃないかってことで、町会活動にも参加しながら、結果的には地域振興課、行政の方が町会と繋いでくださったりとしてくださったりして、今回の実現まで至っています。

現在はもう12月の5日にやることが決まっているんですけども、やりたいことはあるんですけども、どういうふうにやったらいいかわからない、後こういうふうな人が欲しいけれどもまだいないということで簡単に言いますと、実際にお店マルシェで出店してくださる方もぜひ募集しています。

別にプロである必要はなくて、もの作りをしててちょっとした陶器作れるとか、そういう手作り作品を今趣味で作っているわよっていう方があったらぜひ出てほしいですし、物でなくてもいいと思ってるんですよ。ちょっとこういうのが得意だから、その相談してくれたらアドバイスできるよとか、物を作って販売する必要が多分販売だけではなくてそういうお話的な形で出店するっていうのも歓迎です。

出店する人たちをプレイヤーと名づけるのであれば、あとは運営側の手助けも非常に必要としております。例えば私達の常に目の前のことに追われてしましまして記録というものを全然取っていないことを話しましたが、具体的には写真を撮ってくれる方。

先ほどのテーブル1でアドバイスいただけたのは写真だけではなく、ビデオを、出店者の方に一言もらって、その終わった後にまた一言もらうだとか、ちょっとあの決まった視点を持って動画を撮ってくれる方もあった方がいいんじゃないかというアドバイスをいただいています。

その後ですね、当日マルシェをやった後にその経験を生かして他の公園でもできるように、そのノウハウをまとめたいという希望もあのまち倶楽部からテーブル1の方に相談させてもらった結果、どんなアドバイスをいただいたかといいますと、そうですね。

やる時には事前にチェックリストを作っておいたらどうかですとか、相談する人々についてもPTAの方とか、子ども会の方、そういう人たちの中には若い世代の人たちもいるので町会の方にそうなかなかマンパワーがなかったとしても、そういうグループに相談すればいいんじゃないかというアドバイスもいただきました。その町会の、あ違う、子ども会の方たちに紹介してもらえそうな永野さんから紹介していただけるんじゃないかと思っておりますけれども、そういうオプション化を通じて、またいろんな人材もサポーターとして補完していけそうなふうに感じています。

で、広報の仕方もですね、町会に掲示板があるから、ポスターを貼るよですとか、Facebookのふらっと宮前区っていうのを4000何人がメンバーがいるので、SNSにも載せるといいんじゃないかとかいろいろなアイデアをいただきました。

これはやっぱりマルシェの、私達が目指しているマルシェの性質は誰かに来てほしいというよりは、いろんな人に来てほしい、シニアでも若い人でも行政の人でも人でもそうでない人でも、そういう多様な人に来てほしいと望んでいるので、こういった様々な角度からアドバイスをいただけたのは非常に良かったなと思っています。今回は11月18日の午後に今日集まっていたテーブル1の方でお越しになれる方で、また明日町会の方に提案した後のご報告をして、また具体的に進めていけたらいいなと思っています。

以上です。

01:20:04

千葉：

はい、ありがとうございます。

01:20:07

西村：

テーブル2で話し合ったことがまずイベント私がどうしてもちょっとイベント出店をしたことがあったので、イベントをするにはとか、例えば常設の箱を作る、っていう場の話になったんですね。

ただ、最終的にいろいろ話し合った中で、特定の場とかイベント大きなイベントじゃなくて、もう移動図書館のような、この規模の小さな規模でいろんなところを回るっていうのも一つの案じゃないかっていうふうに言っていました。

解決したいと思っていた地域のシニアの課題っていういろいろここにあるんですけども、解決したいと思っていた地域のシニアの課題。

例えばさっきお話を今回の方からいただいたのが、いつも同じ時間に同じ曜日に会える人がいるっていうのがすごく大事で安心するっていうお話をいただいたんですね。

なので、例えば最初道の駅っていうどこか場所を作っていくと思ったんですけど、そうじゃなくて例えば菅生分館に毎月第3水曜日とか、例えばどこどこに毎月第1月曜日とかそういうふうに回って色んな地域を回って使える施設のところに回って、小さな規模でイベントというか、そういった人が来てもらえるような場を作るっていうのが、ちょっと宮前区版の道の駅という今タイトルついてますけども、そういったものがあるのか

なっている話し合いになりました。

あと運営に関して、イベントの運営ってすごく大変なんですけれども、これをこう継続するためにも大きなお祭りとかイベントとかっていうよりも、小さく継続できるような、小さくやっていくのがいいんじゃないかっていうお話もいただきました。

次回なんですけどちょっとテーブル2は次回の日がちがって決まっていなくて、12月中に1回やるということなんですけど、それまでに私の方でも、他の自治体でも移動図書館だったり移動イベント移動コンテンツみたいのがあるのかどうかとか、ちょっとそういうのを調べながら、少しまたイメージを固めた上で、12月のどこかでまたテーブル2の方々とお会いできる方々と一緒に考えさせていただきたいなと思っています。

以上です。

ありがとうございました。

01:22:45

千葉：

ありがとうございます。

ではテーブル3お願い致します。

01:22:49

森山：

はい地域振興課の森山です。

テーブル3はですね地域のこと地域活動のマッチングっていうんで、実はテーブル3についてはもう前半の話もあった通りコジマルシェっていう部分でこのマッチングやっちゃってるんですね。

なので、やった結果を持って2回目のコジマルシェに向けて出てきた課題とか検討事項を検証して、2回目のイベント自体をより良くしようという部分で考えてます。

役所としての検討課題の他にもやっぱり企業側としての検討課題、出店者側としての検討課題いろいろありましたので、そういった部分で今回洗い出しをして、2回目のこの12月5日のですねミーティングの時に、もう少し掘り下げていこうという話になりました。

という部分で、一つイベントをやるにあたって、毎回同じ人が出る安心感もあるんですけど、やっぱりその出てるのは毎回一緒だと飽きも呼ぶってところもあるので新しい人をどう呼んだらいいのかどういふふうにマッチングしていくのか。

で、出店にあたって、やっぱり出るにあたるこの商品の質であったりとか、他にもですね出店する人の人柄もいろいろあるかと思います、

そこのイベント会場で起きたものを今回の場合コジマの梶ヶ谷店で起きたことっていうのは基本的に全部コジマ梶ヶ谷店さんの方にクレームが行くっていうのもありますので、そういった部分の一定の水準をどこで線引きするのかなのというのも一つ検討課題として、上がってきました。

2回目のですね、やった結果3回目以降のイベントに向けてそういった部分を洗い出しをしていければと思ってまして、2回目のミーティングのときに検討課題をやった結果をもって、可能であれば2回目のコジマルシェをやって、最後の報告のときに3回目に向けた一つの後押しという形で一つ組んでいければいいかななんて考えているところです。

次回が12月5日の朝9時からっていうところでこれが終わった後に多分おちば公園のマルシェに人が行く感じかなんて思ってますけど、次回はですね、Webも併用するのかもしれないとこもあるんですが、出てきた検討課題でそれぞれ誰が検討しなきゃいけない課題なのかっていうところをあらかじめ振っておいてですね、2回目の実施がスムーズにいければと思っております。

ごめんなさい、全部説明しきれないので終わった後見てねっていう感じになっちゃうんですけど、提供側だったり、活用側、区役所側のそれぞれの意見をですね、縦横でまとめてありますので、そんな感じでごめんなさい見てもらってという形で、3番の報告を終わります。

01:25:13

千葉：

一言ということをすごい一番印象に残ったとこでいいんだけど、コジマルシェをやって課題だと思ったことっていうのはどんなことだった。

01:25:21

森山：

難しいな。課題っていう課題もあれはないんですけど、あのものを全部コジマさんが今回出してもらってる形があったんですね。

テントの設置とかテーブルの設置とかっていうのを全部コジマさんがやってくれたので、その営業している中で、そういったことをやるという人をやっぱつけなきゃいけないっていう部分もある程度負担感があるってのは、ありますのでただ出店者側でできることは担っていくっていうところは一応出てきたところで。

コジマさんも営業されてるのでいらっしゃいませとかずっと声かけていただいと。

ただコジマさん側の気持ちとしても、やはり全部ほったらかしにするわけにもいかない。

顔の部分でやってもらってるイベントだからってのもあるのでそういった部分のやりとりを密にしていってですね、ここまでお願いします、こっからはやりますというところも2回目3回目以降をやればいいのからなんという話もあったとこですね。

01:26:11

千葉：

なるほど。

あとなんていうか、区役所として繋いだみたいのところでは、何かこう、盛り上がったこととか。

01:25:30

森山：

これあちこちに書いたんですけど、たまたま森山たまたま森山、たまたま森山に声がかかったからできたんですよ。

たまたま森山じゃなくてこれがたまたま違う人に声がかかったら多分出てる人たちも全然違う人たちが出てたんだなって思ってます。

実は区役所の業務としてはこういうマッチング機能ってないんですよ。

なくて、たまたま森山に声がかかってマッチングをしたってところあるので、例えばこれを区役所としてこれからマッチング機能どうしていくのっていう一つのモデルケースにもしたいなってことでさっきのコジマさんにはゴマすっておきました。

01:26:54

千葉：

はいありがとうございます。

ちなみにすごい一番良かったことみたいなことで盛り上がったことがありますか。

01:26:59

森山：

やっぱコジマさんの協力でやってたので、こう出てくる人たちに場所代を取らない。

コジマさんが普通のイベントだと場所代取ったりテント借りたらテントのレンタル料とかテーブルのレンタルを取るらしいんですけど、全部コジマさん持ちだったんですよ。

これすごいことですよ、もっと盛り上がるよこだと思ったんですけど。

01:27:23

千葉：

これからもずっと取らないでねみたいな圧がかかってるのかもしれないけど。

なるほど素晴らしい事ですね。

あのクロス販売ってなんですか。

01:27:34

森山：

あのコジマの中で売ってる商品を店頭で使ってるものを出すみたいな。

普段家庭とかで持ってないような作り器具を使って、その人と販売する野菜とかを使った調理をその場で実際に見せて、ていうふうにすることで、何て言うんですかね実演販売に近いですね。

01:27:57

千葉：

なるほどそういうコジマさんのコンテンツを出しながら地域のコンテンツも一緒にそこに出てくるっていうイメージ。

01:28:05

森山：

家電も売れるし野菜も売れるみたいな、そういったものがクロス販売らしい。

はい、ありがとうございます。

01:28:14

千葉：

ラウンドテーブルっていうことをお試してみようと。

ただ、すごくフワッとした考え方なんで掴み捉えどころがないっていうふうに思えるかなと思ってすごくしつこく同じ絵を見せたりとかしたんですけど、実際にテーブルに別れていったところすごく議論が盛り上がっていたり、ポジティブな感じですかねいろんな意見が飛び交っていたのが印象的でした。

で、改めてちょっと振り返ってみますと、テーブル1についてはまちかどシェアっていうのを既にやっているけど、例えばアドバイスとして、その運営をしていく上でいろいろな効果的なツールですねチェックリストっていうもの、あとその声かけ先みたいな話広報の話でいろんな面に出てきていたということで、11月18日に打ち合わせがある中で、あるいは明日でしたっけ町会さんに打ち合わせがあるときに今日の話がどういうふうに響くのかみたいなことも含めてラウンドテーブルの効果であるとか可能性をちょっと広げていただければと思います。

そしてちょうど12月5日の打ち合わせがあとそのままいけそうみたいなこともあるんで、ぜひ他の皆さんも当日の拡大まちかどシェアにご参加いただけるように予定を入れていただければと思いました。

テーブル2はですね道の駅という言い方をバンバンしていたし、あとなんだっけ、エンジョイシニアの文化祭ってということで、西村さんはイベントをやったと。

だけどイベントをやるっていうのを続けていくって大変だよねっていうことがあり、常設の場所があるといいのかなと思ってたんだっていう話だったんだけど、移動図書館っていうキーワードが出てきたときに、ちょっと発想がガラッと変わって、小さくて、イベント管理でもないものがあるところ、軒先にお邪魔するみたいなことなのかもしれないと。

その日程では例えばだいたい水曜日の何時からとかっていうふうに決まっていたら、例えばそこに行ったらいつも同じ人がいて、挨拶したりお茶飲んだりできるとか、そういうことですよね。

その場所を狙って、私これ出店したいんだけどって言ったらできるみたいな可能性でそれを公共施設である営生分館の公園みたいなものもあればもしかしたらコジマさんじゃないですけど、こう民間の場所を使うっていう可能性もあるのかなと思いました。

ちょっと話をね、横で聞いてて小林さんの話の中で、地域包括とか地域の情報を持っていると。

例えば、言っちゃっていいのかな、この車をあのもう年をとったんで返納します、そしたらそのガレージが空いてます、実はそのガレージってもっと何かに活用できればみんなにWin-Winになる活用の方法があると、そういうふうに結構見えないけど資源の情報が、例えば小林さんの中には入ってきてると。

これはもしかしたらこの移動型道の駅みたいなものの、一部の支援になるかもしれないなと思ってちょっと伺いました。

なのでだいたい発想は転換してると思うんですけど、イベントじゃない、重くない、でいろいろ移動できるか、もっとシステム化できたら面白いなと思って私も伺いました。

次回はまだ決まってないけど12月中にということで、引き続き、よろしくお願いします。

最後ですね、コジマさん、コジマルシェをやって2回目をまずやろうっていう方向で動いているということで、

楽しみにしております。

その中で出店の基準って面白いですね。

どこも出店をするプレイヤーがいるんだけど例えば民間のところでやるならどういう人が出店するのか。

ただここが例えばクオリティではなくてもしかしてその人がいるってことが大事っていう出店かもしれないし、その出店をするプレイヤーっていうのも捉え方で全然変わってくるんだな、ここはどんな人がいたらみんな飽きさせずに続くマルシェになっていくのかってことがきっと検討されていくのかなと思います。

またその前段の話の中で、ちゃんと説明してなかったたまたま森山さんっていうね、キーワード、これって要するに役所で窓口になった人のコーディネート力ですごく面白いものになったり、あるいはならなかったりするかもしれない。

それでももしかしたらラウンドテーブルっていう場所があってそこに相談に行ったらパパッとすごい面白いものが出来上がるっていう可能性があるってことですよね。

役所の窓口に行くだけではない、いろんな選択肢の相談窓口がもしかしたらできるかもしれないとも思いながら、このたまたま森山さんっていうのを可能性の広がりみたいなコーディネートの部分もちょっと今後に期待したいと思います。

ということで簡単に振り返りですが、ここから始まったばかりということで大切なのはここで実験することでも大切なんだけどその都度その都度、今日の会議の中でも気になるならもっとこうやれば意見出るのになっていう一つ一つもう全部振り返るポイントになりますので、アンケートにしっかりしっかりとというか、忌憚なくいろいろ書いていただいて、それ全部を振り返り材料としてソーシャルデザインセンターの材料にしていきたいというふうに思っております。

では私の方からは以上としてマイクをお返しします。

ありがとうございました。

01:33:32

山田：

すいません皆さん、長時間どうもありがとうございました。

それでちょっと閉会にあたりまして、改めてあの企画課長の方からご挨拶させていただきます。

お願いします。

01:33:42

小出：

皆様、長時間にわたりまして本日本当にどうもありがとうございました。

プロジェクトオーナーを務めてくださった方々、素晴らしいメッセージとリード。

それからこの参加者のメンバーの皆様方の本当に引き出しの多さと、真摯的な協力的な態度で本当に活発にご発言をいただいて、どのテーブルも非常に実りの多い議論となったなと思っております。

私ども職員も本当に多くの気づきを得ることができました。

次回は各テーブルごとのこの分科会が冬の間に行われまして、またこの全体会議に戻ってくるのが3月頃と、もう春の足音が聞こえてくるということで本当に長丁場になりますけれども、引き続きのご理解とご協力の程

よろしくお願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。

01:34:45

山田：

お配りした資料にアンケートが付いてたかと思います。

こちらちょっとぜひ次に向けて、あの貴重な資料にしたいので必ず、はいすいませんご提出をお願い致します。今日関心についてどう感じましたか、ラウンドテーブルどう感じましたかっていうところもちょっと記載あのですねコメント書く欄がないのもう裏でも何でもいいのでぜひいただいてですね、次に向けて反省していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

あと他にもぜひ行きたいっていうのもぜひチェックしていただいて、その下に公共施設の地域化について使いたい場所とかこういうふうに使ってみたいっていうアンケートがございます。

これ最初に山城さんの方で話していただいて本当にいろんな公共施設を使えるといいなてところだと思うんですけども、ここもどういうところを皆さんが使いたいのかどういうニーズがあるのかそこはどういう基準でどういうふうに管理されてるのかっていうことを合わせながら今後の検討に使っていききたいと思いますのでぜひ記入をお願い致します。

今日は本当にありがとうございます。

本当に前向きないろんな意見とですね、宮前が改めてすごい資源たくさんあるなというのは本当あの感じさせていただいて、前向きにこれから取り組んでいけそうだなと思っております。

本当にありがとうございました。

01:36:00 [音楽]